

研究課題番号	3-2103
研究課題名	先が読めない廃止期間を、半物理・半統計的に評価するための最終処分場エミッションモデルの構築
研究実施期間	令和3年度～令和5年度
研究機関名	国立環境研究所
研究代表者名	石森 洋行

1. 委員の指摘及び提言概要

実務者と連携しながら実装を目指した研究であり、初期に目標とした成果を一定程度得ている。実務的かつ難易度の高い研究に積極的に取り組んでいる。56か所の処分場の実測データを得たことは、成果の普及につながるし、環境行政の進展の一助となる。研究目標の達成状況という観点からは一定の進捗になっている一方、適切な研究目標であったかという観点を含めて、難易度の高い研究目標を達成するための研究構造（各サブテーマの研究目標の組み立て方等）の適切性について再議論が望まれる。また、予測誤差の類型化として、どこまでを想定されているのかは現状では不透明であり、この点での進捗を望む。モデルが実用的かどうか、そこが研究の価値を決める核心であり、その点を1処理場のデータからではなく、一般性のある形で実証していただきたい。加えて、現地実務者と研究者が効率的に交流することで予測精度が上がるというメカニズムを明確にしつつ、最終的な成果物が実用性を持つような展開を期待する。

2. 採点結果

評価ランク：A